

北薩摩の古道 薩摩街道 出水筋 歩行マップ

向田のほとんどは、蘭草や竹藪が点在する田圃が一面に広がって
いました。人々は「在郷んタンポ」と呼び、とても淋しいところだっ
たと言われています。しかし人家が建ち並び旅人が行き来する道が一
本だけありました。それが向田の本通りです。この道は、島津藩が江
戸へ上るときにも利用されました。
島津藩の大名行列で三千二百二十人と記されているときもあり、行
列の長さはおそらく一里(約4km)以上あったことでしょう。
参勤交代の大名行列が毎年通るこの道はいつしか「薩摩街道」と
呼ばれるようになったそうです。



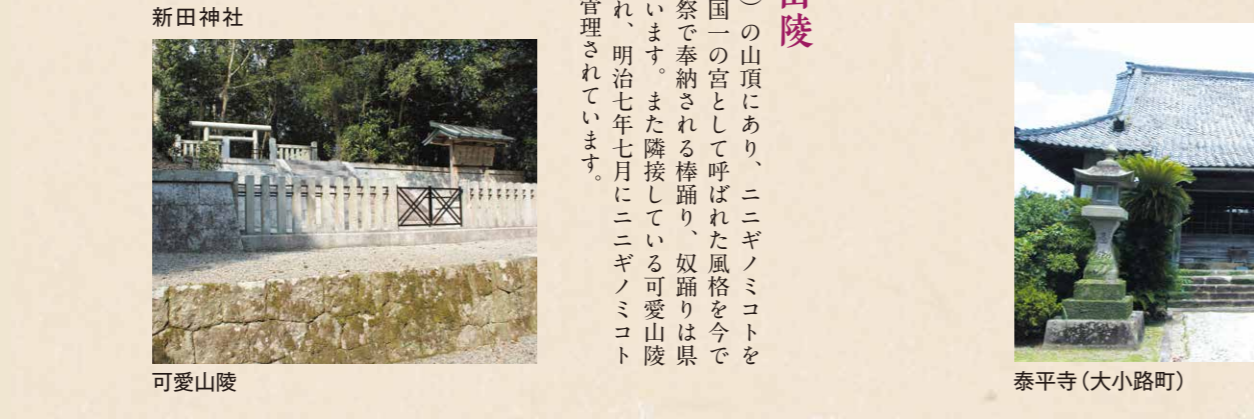
様々な形の道標

薩摩川内市には約27キロの薩摩街道(出水筋)がしっかりと残っています。道標設置も年を追うごとに進められています。



6 渡唐口・渡瀬口

石組みの重厚な雰囲気漂う舟付場であったと言われています。「渡唐口」とは、読んで字の如く、唐に渡る港の意を含むとことです。



薩摩街道を歩く。 ～歴史の道をたどって～

薩摩街道とは肥後藩熊本城下の札の辻と薩摩藩鶴丸城下の西田橋を結ぶ街道のことで、明治時代に国道が建設されるまで、南九州の陸上交通の大動脈でした。
鹿児島では城下から3つの街道があり、それぞれ筋と呼ばれていました。宮崎高岡を通る日向高岡筋、加治木から大口を経て水俣へ通じる大口筋、そして川内から出水へと向かう出水筋(薩摩街道)です。

出水筋は参勤交代の道として利用されており、大河ドラマでも有名な天璋院篤姫もこの道を通り江戸へと向かいました。
熊本には四街道あり、札の辻を起点として豊前・小倉に至る豊前街道、豊後鶴崎に至る道で九州を横に結ぶ豊後街道、日向・延岡へ至る日向往還、水俣を経て薩摩につながる薩摩街道とそれぞれ呼ばれていました。薩摩街道は主要な幹線として古くから往来が盛んで、時には肥後と薩摩の攻防の歴史の舞台となりました。

歴史が下り、西南戦争の時は薩摩軍の北上ルートになりました。
また、同時に文化、風俗、物資などの異文化に接することができる交流の道でもありました。

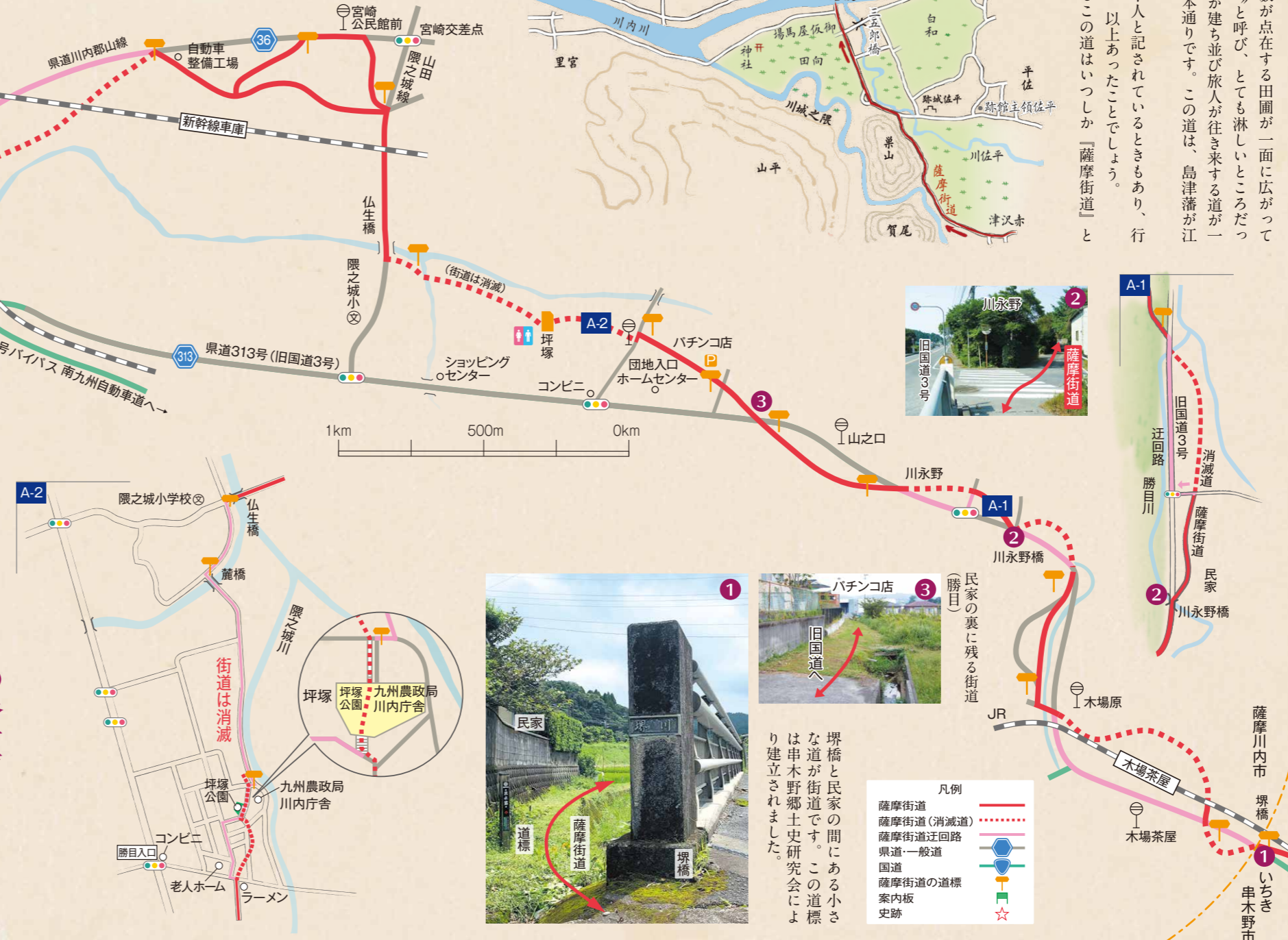
九州平定の豊田秀吉、参勤交代の薩摩藩主島津氏、明治維新前夜の西郷隆盛、大久保利通など、偉人達が残した足跡をたどりながら、その交流、攻防の歴史をたどってみましょう。



薩摩街道ルート(川内～袋)



渡唐口(向田町)



江戸時代の頃、平佐川はここを流れていたにもかかわらず、街道は直進していました。



泰平寺(大小路町)

8 新田神社と可愛山陵

新田神社は、神亀山(高さ70m)の山頂にあり、ニニギノミコトをまつる神社です。かつて、薩摩国一の宮と呼ばれた風格を今でも残しています。六月の御田植祭で奉納される棒踊り、奴踊りは県の無形民俗文化財に指定されています。また隣接している可愛山陵は、神代三山陵の一つにあげられ、明治七年七月にニニギノミコトの墳墓と指定され宮内庁直轄で管理されています。



可愛山陵

7 泰平寺
泰平寺は和銅元(七〇八)年に元明天皇の勅願によって建てられたと伝えられる寺で秀吉の九州進攻の際、秀吉の陣営が置かれました。島津義久と豊臣秀吉との和睦もこの地なされ、その時の情景を示す和陸石が残っています。